

第2章

安全衛生

あらまし

建設業では、作業中の事故で、毎年100人以上の人が死亡しており、1000人以上の人が重傷を負っている。また1000人以上の人が、皮膚炎、石綿症、産業喘息、白蟻病、聴覚障害など健康の問題を被っている。したがって、安全衛生が極めて重要なものであるか知れば、なぜ学ばねばならないかも、知ることができる。

この章では以下の課題を扱っている。

- 安全衛生法令
- 建設業における衛生福利
- 人力作業（マニュアル・ハンドリング）
- 危険
- 火災と消防設備
- 安全標識
- 个人防护具（PPE）
- 緊急事態
- 応急処置
- 事故報告
- リスクアセスメント



こうした課題は、以下の技能資格モジュールに該当している。

CC 1001K

CC 1001S

安全衛生法令

仕事の間、どんな立場でも、いかなる種類の仕事でも、従わなければならない重要な法律があるのを意識している必要がある。安全衛生法令は、ただ単に保護するためというものではなく、自分たちや他のものが、**危険**な状況に置かれないのを確実にするよう、しなければならないこと、してはいけないことを規定している。

それぞれの法律は、雇用者と従業員の責任について適用されるもので、その両者の責任を意識しているのは大切なことである。レベル2の資格志願者としては、自らの行動に対する責任を考えるだけでなく、他のもののために監督責任も考えなければならない。こうしたことは、他のものの仕事を監督する際に、そうした法律を考え、そして他のものが法律を意識するのを確実にすることと関係している。

Definition



定義

Hazardous 危険

危険な、安全でない。

法令とは何か

法令（Legislation）はしばしば法（Act）と呼ばれ、議会によって可決された法律（Law）か法律のセットを意味している。調髪から建設まで、すべての仕事の方法を対象としている何百もの法律がある。各法律は**雇用主と従業員**の義務を規定している。雇用主や従業員が、するべきでないことをしたり、あるいはするべきことをしないならば、裁判になったり、罰金を課せられたり、あるいは投獄ということありうる。

Definition



定義

Employer 雇用主

使用者、雇い主。

Employee 従業員

被雇用者、労働者。

承認実施準則、指針書、および安全方針

法律と同様に、2種類の実施準則と指針書があり、それらは**安全衛生庁（HSE）**で作成されたものと、企業自身によって作られたものである。ほとんどの大きな建設会社、また多くの小さな会社にも、独自の指針書があり、安全衛生法よりさらに厳しいものになっている。たとえば、法律では危険場所では、全ての人が安全靴を履かねばならないのとしているが、会社の指針書では、どんな場所でも誰もが安全靴を履かねばならないとしている。これは受動的なものよりむしろ積極的アプローチを取ることであると言える。

ほとんど会社には、すべての仕事ができるだけ安全に行えるよう計画された、会社の決意表明や宣言などまとめた安全方針の書類がある。従業員として、実施準則と同様に会社の安全方針を確実に理解すべきである。あなたが企業方針にそむいて行動した場合、法廷では起訴されないが、会社で教育訓練されるか、解雇されることさえもある。

Definition



定義

Health and Safety Executive (HSE) 安全衛生庁

イギリスの安全衛生に関する法律を実施する政府機関。

Proactive 積極的

事故など、なにかが起ころ前に先に行動すること。

Reactive 受動的

何かが起こった後、それに応じて行動すること。

Page 33

意識しておく必要がある安全衛生法

意識しておく必要がある法律は、20ほどあり、それは雇用主しばしば従業員に必須なものとなっている。イギリスの安全衛生法では、**So Far As Is Reasonably Practicable. (SFAIRP)**＝「合理的に実施可能」といったフレーズが頻繁に使われる。こうした表現は、安全衛生は常に守られなければならないが、常識をもって実用的アプローチを取らなければならないことを意味している。

例えば、1974年労働安全衛生では、雇用主は合理的に実施可能な範囲で、安全な職場を提供するのを確実にしなければならないとしている。しかし80万回に1回しか起こる見込みのない落雷事故から、スタッフを保護するため、雇用主が最善の努力をしているとは予想できないが、これは合理的ではないのではないのか。

これから最も影響する法令について、見てゆくことにする。

1974 年労働安全衛生法（H A S A W）

HASAW は、すべての職種、職場で、また雇用主、従業員、自営業者、下請契約者、そして供給業者にも適用される。さらに仕事場の人々だけではなく、実施された、あるいは実行される仕事によって、何らかの点で影響を受けるかもしれない公衆を保護するためにも法律はある。

労働安全衛生法の主な目的には、次のものがある。

=すべての就業者の衛生、安全、および福祉を確実にする。

=すべての作業活動から公衆を保護する。

=爆薬と可燃性物質の使用、取り扱い、格納、および輸送を制限する。

=有害や悪臭物質の大気中への放出を制限する。

こうした目的が満たされるのを確実にするため、すべての雇用主、従業員や供給業者には義務がある。



従業員および公衆を保護するよう法律はある。

雇用主の義務

雇用主がしなければならないこと：

- 作業エリアへの安全な入口と出口の提供。
- 安全な作業場の提供。
- 健康へのリスクのない建設機械の提供と保全。

Definition



定義

Access 入口

入口、進入口。

Egress 出口

出口、退出口。

- 全従業員の労働安全衛生を確実にするために情報、教育、トレーニング、および管理を提供する。
- 物品と物質の取り扱い、格納と輸送に関して健康へのリスクを無くし安全を確実にする。
- 定期的に改訂して、更新される文書化された安全方針を持ち、全従業員へ周知徹底する。
- 安全衛生に関連するすべての件で任命された、労働組合の安全代表と交渉を持つ。
- 保護具（P P E）を無償で提供する。

従業員の義務

従業員がしなければならないこと：

- 自身の安全衛生に注意を払う。
- 作為、**不作為**に関わらず影響を受けるかもしれない人への安全衛生に相当な注意払う。
- 法的**義務**を果たそうとする雇用主や他の人に協力する。
- 安全衛生のために提供されたものを誤用したり、いじくらない。
- 雇用主から提供された設備や安全装備を使用する。

安全衛生に関する法的必要条件が満たすのを確実にするための用意や実施に関して、従業員にはその対価が請求されない。自営業者と下請契約者には、従業員と同じ義務があるが、もし自身の従業員がいるならば、雇用主であるとみなされた義務に従わなければならない。

Definition



定義

PPE 個人防護具

手袋、安全ベルトやゴーグルなどの個人防護具

Omission 不作為

していないか、または省略したこと

Obligation 義務

義務や責任を持っていること

供給業者の義務

仕事で使われる物品や材料を、設計、製造、輸入、供給する人は、次のことを確実にすること。

- 物品は、施工および使用されるいかなる時も、健康へのリスクがなく、安全であるよう、設計・施工されること。
- 材料は、使用、取り扱い、輸送、格納されるいかなる時も、安全で、健康へのリスクがないこと。
- 物品や材料の試験を必要に応じて行う。
- 物品や材料の使用、取り扱い、輸送、および格納に関して適切な情報を提供する。

記載された他の法律と同様、HASAWは、安全衛生庁(HSE)によって実施される。HSE検査官は、現場をまわり、次のような権限を持っている。

- 妥当な時にいかなる構内にも立ち入る。
- 警察官を同行させる。
- 構内のいかなるものでも検査し調査する。
- サンプルを採取する。
- 危険な物品や材料を押収する。
- 一定期間内に会社が安全衛生の問題を解決するよう改善通知書を交付する。
- 現場が安全であるとみなされるまで、すべての仕事を停止させる禁止命令を交付する。
- 雇用主、従業員、自営業者、供給業者など、法を犯した者を告訴する。

Definition



定義

Prosecute 告訴

一般に裁判の被告になるような犯罪を犯した者を告発すること、もし有罪ならば、罰せられる。

1998 年作業機器提供・使用規則（PUWER）

これらの規則は、すべての新しいあるいは、既設の作業機器、リース、賃貸、中古も含めカバーしている。すべての産業、沿海、サービス活動を含め、HASAW が適用されるほとんどの作業環境に適用される。

PUWER は、運転開始、停止、通常使用、輸送、修理、調整、整備点検、および清掃を含んでいる。作業設備は、非居住施設で使用する、いかなる機械、器具、装置、道具や組立コンポーネントを含んでいる。ダンプトラック、丸鋸、はしご、オーバーヘッドプロジェクタ、および鑿はすべて含まれるが、材料、自家用車、および構造的な物は、ここでの定義から外れる。

法律が、以下のようなことを、設備に要求している。

- 本来の目的で、適切な条件でのみ使用されること。
- 効率的な状態で維持され、メンテナンス記録が保存されること。
- 著しく危険な設備は、適切に訓練された人によってのみ、使用、修理、維持されること。
- エネルギー源が遮断できること。
- 安全衛生のリスクなしにメンテナンスできるよう、組立や改造がされていること。
- 適切な警報や警報装置が付けられていること。

さらに、法律は以下のことを求めている。

- 作業設備を使用、監督、管理するすべての人が適切に訓練されること。

- 機械のいかなる危険な部分にもアクセスが、防御または制御されること
- 高温や低温になる作業設備による負傷から防御されること。
- 作業設備の運転開始、停止のために適切なコントロールが提供されること。
- 適切な非常停止システムと、作業設備を合理的なすみやかさで、安全な状態するのに適したブレーキシステム。
- 作業設備を操作するために供される適切で十分な照明。

2002 年有害物質管理規則（C O S H H）

これらの規則が従業員と雇用主が、以下のような潜在的な有害物質（健康にマイナスの影響を与えるかもしれない物質）の取り扱い、格納、輸送、廃棄処分で、いかに作業すべきか規定している。

- 作業活動で直接、使用する物質（例えば、接着剤や塗料など）
- 作業活動の中で発生する物質（例えば、木材のサンダー掛けでの埃）
- 自然発生する物質（例えば、砂の粉末）
- 生物学的薬剤（例えば、バクテリア）

ほとんどすべての作業環境でこれらの物質を見つけることができる。独自の管理規則があるアスベストと含鉛ペイントを除いて、すべてが COSHH 規則でカバーされている。

COSHH 規則に従うために、つぎの 8 ステップを満たさなければならない。

ステップ 1 = 作業活動で使用する、あるいは作成される有害物質の健康への危険性を評価する。

ステップ 2 = いかなる注意が必要であるかを定める。

ステップ 3 = 従業員が有害物質にさらされているのを防ぐ。防止が不可能な場合は、適切に危険を制御しなければならない。

ステップ 4 = 適切に使用、保全の管理方法を確実にする。

ステップ 5 = 従業員への有害物質の曝露を監視する。

ステップ 6 = 健康監視を行って、健康上の問題が存在するか確認する。



ステップ 7 = 流出などの事故への対処計画と手順を用意する。

ステップ 8 = 全従業員が適切に知らされ訓練され監督されるのを確実にする。

有害物質

COSHH 規則に該当する物質かどうかを特定するのは、常に容易であるは限らないが、供給業者やメーカーに、物質に伴う危険について概説した COSHH データシートを求めることができる。内容物が浸食性、有害、毒性あるいは環境に有害性を示した警告サインが、物質容器の多くのに付けられている。



浸食性、毒性、そして爆発危険な材料の一般的な安全サイン

Safety tip



安全情報

すべての物質がラベル表示されるというわけではなく、時々ラベルが内容物と合っていないかも知れない。なにか疑問があったならば、その物質は使用せず、触れないこと。

1992 年職場における個人防護具規則（P P E R）

これらの規則は手袋から空気呼吸器まで個人防護具（P P E）のすべてをカバーしている。リスクアセスメントと潜在的な危険性の確認の後に、個人防護具の適切なタイプは選ぶことができる。P P E は供用される前に、訓練された有能な人がメーカーの指示に沿ってチェックするべきである。必要であるところでは、雇用主は適切で安全な格納場所と合わせ、P P E を無償で提供しなければならない。

雇用主は、従業員が知るのを確実にしなければならないこと。

- P P E が回避あるいは減少させる危険性。
- 目的と使用方法。
- メンテナンスと手入れ方法。
- その限界。

従業員がしなければならないこと。

- P P E の使用を始める前に、使用訓練を確実に行う。
- 雇用主の指示にそって使用する。
- 使用後は、格納場所に返却する。
- 手入れをし、紛失や欠陥が生じた場合、雇用主に報告すること。

Remember



覚えて

P P Eは、防御の最後の一線としてのみ、使われなければならない。

Page 38

2005 年職場騒音管理規則

建設業では仕事上、騒がしい作業環境で働くことがある。これらの規則は、永久的な聴覚障害につながる高いレベルの騒音にさらされる影響の重大性に対して防御するのを助けるものである。聴覚障害は、耳の感染症から騒音まで、さまざまな原因がある、この規則では主に後者を扱っている。難聴は、ほんの数秒間の非常に大きい騒音や、ドリルのように何時間も続く比較的やかましい騒音から生じることがある。

規則で定めている雇用主がしなければならないこと。

- 従業員の作業騒音の危険性を評価する。
- こうした危険性を生みだす騒音曝露を抑えるよう処置をとる。
- 聴覚保護具を従業員に提供、これが不可能ならば他の方法でリスクを減少させる。
- 騒音曝露が法的限界を超えないことを確実にする。
- 情報、指示教育、およびトレーニングを従業員に提供する。
- 健康へのリスクがあるところでは、健康監視を行う。



作業での騒音



Did you
know?

知ってる

騒音は、デシベル（dB）で測定される。平均的な人は3デシベル以上の音に気づくが、3デシベル増えるごとに、騒音は2倍になる。小さな上昇のようにみえるものも、実際に非常に著しい。



Remember

覚えて

難聴は高齢者と同様に若者にも影響を及ぼす。

2005年高所作業規則

建設労働者は、足場、はしご、屋根など地面から高いところで、しばしば作業する。これらの規則は、高所作業で働きの負傷や死の危険を減少させるために、雇用主がするすべてを確実にさせるものである。雇用主は、以下の義務を持っている。

- 可能ならば高所での作業を避ける。
- 落下を防止する、設備や安全装置を使用する。
- 落下の重大さと距離を最小にする、設備やその他の方法を使用する。

従業員は、トレーニングを受けた通りに、いかなる危険も監督に報告し、利用可能ないかなる安全装置も使用しなければならない。

1989年職場電気規則

これらの規則は、電気や電気設備の使用する作業を対象としている。雇用主には、従業員が接触する電気系統が、安全で定期的にメンテナンスされているのを確実にする義務がある。また従業員が活線電流と接触すると危険を減少させるために、法律で規定されたすべてを実施しなければならない。

1992 年マニュアル・ハンドリング作業に関する規則

これらの規則は、機械ではなく、人が持ち上げて行うすべての作業活動をカバーしている。法律は可能ならば、人力での取り扱い避けられるべきであるが、避けられない場合は、リスクアセスメントをするべきであると規定している。

リスクアセスメントには、4つの検討事項がある。

- 荷（負荷）－重いか、角がシャープか、保持するのは難しいか。
- 人－ 小さいか、妊婦か、トレーニングが必要か。
- 仕事－身体から遠く離して物を保持する、あるいは腰を繰り返しねじる必要があるか。
- 環境－床が平らでないか、階段があるか、雨が降っているか。

アセスメントの後に、状況を絶えず監視して、必要ならば、更新や変更を行わなければならない。

1995 年傷害、疾病、危険事態発生報告規則（RIDDOR）

RIDDOR のもと、雇用主には、傷害、疾病や危険事態の発生を報告する義務がある。HSE は、リスクがどこでどのように発生するかを特定し、重大事故を調査するのにこの情報を活用する。

意識しておくべき他の条例

また、以下の法律も意識しておくべきである。

- 1997 年職場の火災予防規則
- 1971 年火災防止法
- 1972 年可燃性液体及び液化石油ガスに関する規則
- 1999 年－揚重機（リフト）安全規則
- 1996 年建設（安全衛生及び福祉）規則
- 1990 年環境保護法
- 1997 年閉塞空間規則
- 1998 年労働時間規則
- 1981 年安全衛生（救急）規則
- 1994 年建設（設計およびマネジメント）規則

さらにこの他のものは、図書館やオンラインで調べることができる。

Find out



調べて

ここにリストアップされた以外の法規を政府ウェブサイトで調べること。

www.hse.gov.uk

建設業における衛生福利

建設業における作業は、負傷と事故発生率が最も高いものの1つで、労働者として、健康と安全な心構えを取らないと、一定のリスクになってくる。事故を防ぐための規則や法規を守ることによって、自身や他の者への相当な注意を払うことによって、安全な労働者になり、その結果として、負傷や事故の可能性も小さってくる。

Remember



覚えて

自身や他の人々を保護するために、安全衛生法はある。近道を取ったり、規則を無視したならば、自身や他の者を、深刻なリスクにおくことになる。

建設労働者への最も一般的なリスク

ほんとうにそうしたことがあるのと思うかもしれないが、働いている建設業の、危険およびリスクについて考えてみることにする。

建設労働者が直面している、最も一般的な安全衛生リスクは次の二つである。

- 事故
- 病気

事故

しばしば「事故が起こるのではないか」ということを耳にする。しかし、建設業で働いているいま、事故がしばしば起こるということを受け入れるべきではない。事故を考えると、だれの過失でもなく、避けることができなかったものと考えがちである。真実は、ほとんどの事故は、してはいけないことをしたり、同様に重要であるが、すべきことをしなかったといった、人為ミスで引き起こされているということである。

事故は、急いでいる時に、していることに十分な注意を向けていない時に、正しいトレーニングを受けていない場合に、起こりがちである。

事故が起こっても幸運な場合、負傷者になることはないかも知れない。ほとんどの場合、事故は軽傷（例えば、切り傷や打撲傷といった）、またはことによると重傷（例えば、手足の喪失）をもたらし、事故も致命的である場合もある。

建設業における致命的事故の最も一般的な原因は次の通りである。

- 足場からの落下。
- 落下物や材料の衝突。
- 壊れやすい屋根からの貫通落下。
- フォークリフトや貨物自動車にぶつけられる。
- 切り傷。
- 感染症。
- やけど。
- 感電。



作業場を乱雑にしておくと、事故が起こりかねない。

Page 41

病気

建設業で働いている中で、健康に有害であるかもしれない物質や状況にさらされることがある。これらの健康リスクはすぐには気付かず、**兆候**が認められ、認識されるまでに何年もかかるかもしれない。

病気は以下の結果として生じることになる。

- 粉塵（アスベストなどの）の曝露、粉塵の曝露は呼吸障害と癌を引き起こす場合がある。
- 溶剤や化学物質の曝露、化学物質は**皮膚炎**やその他の皮膚の不調を引き起こす場合がある。
- 重いか困難な荷物を持ち上げ、腰痛や肉離れを引き起こす場合がある。
- 騒音の曝露、難聴や聴覚障害をもたらすことがある。
- 太陽光線の曝露、皮膚癌を引き起こす場合がある。
- 振動器具の使用、**白ろう病**や他の手に不調を引き起こす場合がある。

建設業では、すべての人が安全衛生に対する責任を持っているが、しかし事故と健康上の問題はまだまだあまりにも頻繁に起こっている。予防のためにできることは、確実に行うようにする。

Definition



定義

Symptom 兆候

病気や疾病の徴候（例えば、呼吸困難、手の痛みや皮膚の下の腫れもの）

Dermatitis 皮膚炎

その部分が赤く、かゆく痛い皮膚の病気

Vibration white finger 白ろう病

振動器具（通常非常に長期間の）を使用することによって起こる。指への血液の流れが減少し、痛み、うずき、および時々発作（震動させる）を引き起こす。

薬物乱用

薬物乱用は、一般的事項であり、アルコールやドラッグなどが主となっている。

ドラッグを飲むか、または仕事での溶剤を吸入するは、違法であるばかりでなく、集中力が減少し事故につながることになるので、自身だけでなく周りの人にとっても極めて危険なことになる。またアルコールを飲むのも仕事では危険である。昼食を取りにパブに行って、ちょっと一杯のお酒を飲むのは、反射能力を遅くし、集中力の減少につながる。

こうした乱用ではないが、鎮痛剤のような医師が処方した薬も、危険となる場合がある。これらの薬の多くが「眠気を引き起こすかもしれない」とか、「大型機械を操作しないでください」などの警告が付けられている。

謝まれるより、安全である方がよいので、処方箋の警告はいつも確実に守るようにし、眠そうであるか不安定であると感じた時は、速やかに作業を中止すること。

Page 42

健康維持

危険に注意するのと同様に、自分自身の体に気をつけるのを確実にしなければならない。こうする最も簡単な方法の一つは、きちんと手を洗うことである。手を洗うことによって、あなたの身体に摂取（飲み込む）によって危険物質が入るのを防いでいる。トイレに行った後や食事や飲酒の前にいつも手を洗うべきである。

その他の用心としては、肌荒れ防止クリームを塗り、正しい防護具を装着し、飲料水としてラベルされた水だけ飲むのを確実にを行うことである。良い日焼け止め剤で太陽から保護し、背中、腕、および脚を適切な衣服で被うのを確実にすること。健康上の問題というのは、すぐには兆候を見せず、いますることが、人生の後々に非常に影響してくることを、覚えておくべきである。



いつも手を洗って、危険物質の摂取を防ぐ。

Definition



定義

Barrier cream 肌荒れ防止クリーム

損傷や感染から皮膚を守るために使うクリーム

福利施設

福利施設は、雇用主は、安全で衛生的な職場を確実にするために提供しなければならない、トイレなどのような施設である。雇用主が福利を満たすために提供しなければならないものには、次のようなものがある。

●トイレ—提供されるトイレの数は、使用しようとする人数に依存する。ドアの内部から鍵がかけられるならば、男女が同じトイレに使用することができる。またはトイレは水洗であるべきであるが、難しい場合は、化学薬剤を使ったトイレにすべきである。

●洗面設備—雇用主は、作業員が手、顔、および前腕を洗うのに十分な大きさの洗面器を提供しなければならない。洗面設備では、石鹸はもちろん、給湯と給水、さらに手を拭く手段がなければならない。作業が非常に汚れる場合や、または作業員が**腐食性**や**毒性**のある物質にさらされるなら、シャワーが必要であるかもしれない。

●飲料水—水道管に接続された蛇口から、あるいはボトル詰め水から、清潔な飲料水が供給がなされるべきである。水道管に接続された蛇口には、飲料水であるとの明確なラベルが必要であり、ボトル詰め飲料水は、**汚染**を防ぐために分離した場所に保存しなければならない。

●格納庫や乾燥室—すべての建設現場には、コートやオートバイヘルメットのような、作業員が現場で着ない衣服を格納できるスペースがなければならない。

もしこのスペースが、乾燥室として使われるならば、衣服が乾くように、適切な暖房が提供されなければならない。

Definition



定義

Corrosive 腐食性

それが接触するもの(例えば、材料、皮膚)を損傷する場合がある物質

Toxic 毒性

有毒な

Contamination 汚染

有害な化学物質や物質が、何か(例えば、水など)を汚すこと

Page 43

●昼食スペースすべての現場では、作業場から離れて、休息や昼食を取ったりすることができる施設を持たなければならない。こうした施設は、風雨を避けることができる、必要に応じ暖房がなされたスペースを提供しなければならない。テーブルやいす、湯を沸かすやかんやコーヒー沸かし、電子レンジのような食物を温める手段が利用できるようにすべきである。

居住された住宅で作業する時は、その住宅の施設を使えるよう、施主と段取りすることができる。

Safety tip



安全情報

乾燥室に衣服を置くときには、火災に至る可能性があるので、直接ヒーターに置かないようにする。

On the job:



人力作業（マニュアル・ハンドリング）

グリーンとフランキーは手押し車から、漆喰袋を下ろしている。漆喰袋を手で取っている時に、グリーンは、背中に鋭い痛みを感じ、袋を落としてしまった。フランキーは、監督にこのことを言いに行った。監督は、グリーンがかなりの痛みで座っているところにやって来た。

この後、何が起こるべきであると思うか。またこの事故は、防止できたかもしれないと思うか。

訳者注：マニュアル・ハンドリングの日本語訳は難しいが、厚生労働省の国際安全衛生センターでは、HSE 関連情報の中で、人力作業（マニュアル・ハンドリング）としているので、これに倣うことにした。

人力作業（マニュアル・ハンドリング）

マニュアル・ハンドリングは、機械を使わずに設備や材料を、ある場所から他の場所に、持ち上げて移動することを意味する。手での荷を持ち上げ移動するのは、作業におけるけがの最も一般的な原因の一つになっている。重過ぎるもの、扱いにくい形や大きさのものを、何年も持ち上げている、さらに間違ったテクニックを使用することから、マニュアル・ハンドリングのほとんどのけがが引き起こされている。しかしながら、たった1回の持ち上げで、生涯続く腰痛を引き起こす可能性もある。

不十分なマニュアル・ハンドリングは、筋挫傷や、靭帯損傷やヘルニアなどのようなけがを引き起こすことになる。最も一般的なけがは、背骨の損傷である。医師が治すことができるのは、ほんのわずかであるので、背骨の損傷は極めて深刻で、極端な場合は、麻痺したままになってしまう。



不十分なマニュアル・ハンドリングのテクニックは、生涯治らない深刻な損傷をもたらすこともある。

けがを避けるためにできること

持ち上げの際のけがを避ける最も重要でかつ第一の方法は、マニュアル・ハンドリングの専門トレーニングを受けることである。運動力学を考えた荷の持ち上げは、けがの可能性を減らす方法の一つで、次のページにその詳細が示されている。

Page 44

持ち上げる前に、次のようなシンプルな問題を自問すべきである。

- 物は、動かす必要があるか？
- 物を持ち上げるのを助けるものが使用できないか？ フォークリフトやクレーンなどの機械的補助、

人より適切であるかもしれ手押し車などの手動の補助。

- 荷を分けることで、重さを減少させないか？ より小さく、より扱いやすい重さに荷を分解するのは、より多くの行程が必要であることを意味するかもしれないが、それはけがの危険を減少させてくれる。
- 人の助けを必要としているか？ 荷を持ち上げるのに助けを頼むのは、弱さのサインではなく、チームで持ち上げるのは、けがの危険を大いに減少させてくれる。
- 安全にどれほど持ち上げられるか？ 人が持ち上げられる推奨最大重量は25kgであるが、これはあくまでも平均重量で、それぞれの人によって異なっている。人が持ち上げられる量は、体格、年齢、および経験に依存している。
- 物はどこに運ぶのか？ 持ち上がる前に経路に障害物がないことを確認する。また運んで行った先で物を置く場所があるのか確認しておく必要がある。
- 持ち上げ方の訓練を受けたか？ マニュアル・ハンドリングでけがをする一番手っ取り早い方法は、間違った持ち上げ方テクニックを使用することである。

正しい持ち上げ方（運動力学を考えた持ち上げ方）

荷を持ち上げる時に、正しい姿勢を保ち、正しいテクニックを使用するのは、重要なことである。

持ち上げる前の正しい姿勢：

- 片方の足をわずかに前にして、足を肩幅に広げて立つ。
- 膝を曲げる。
- 背筋をまっすぐに。
- 腕をできるだけ体に近づける。
- 指先だけでなく、全体の手をつかって掴む。

持ち上げる時の正しいテクニック：

- 進む方向で荷の真正面に進む。
- 正しい姿勢（上のような）をとる。
- 荷の下に手を置き、体の近くに荷を引く。
- 背中ではなく、足を使って荷を持ち上げる。

Page 45

また荷を降ろす時にも、正しい姿勢とテクニックを取らなければならない：

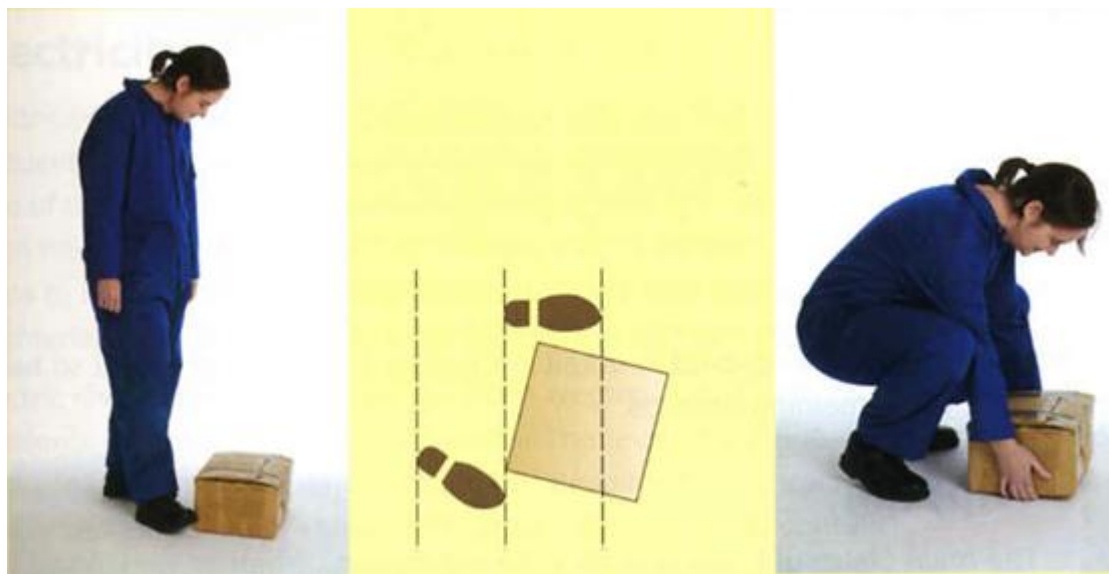
- 背中ではなく、膝を曲げる。
- 指先を捕られないように荷を調整する。
- 荷を離す。

Remember



覚えて

軽い荷さえ腰痛を引き起こす場合がありますので、持ち上げる時にはいつも、体がねじれたり、伸びたりしないよう気をつけること。



持ち上げる前に考える。 持ち上げる前に正しい姿勢をとる。 荷を正しくつかむ。



持ち上げる時は、正しい姿勢をとる。

荷を持ってスムーズに移動。

降ろす時には、正しい姿勢とテクニックを使う。

危険

建築業は、非常に危険な作業場所でありうるので、すべての作業員が気を付けなければならない危険が確かにある。

直面する主な種類の危険

- 高所からの落下
- つまずき
- 化学物質流出
- やけど
- 電気
- 火

高所からの落下については、第3章の高所作業で詳しく触れているので、ここでは、それ以外の危険について見ることにする。

つまずき

つまずきの主な原因は、不十分な片づけである。足場の上や地上で作業しているか否かに関係なく、乱雑な作業場は、事故が起こるのを待っている。すべての作業場は、残材などを片付けて、整頓されているべきである。すべての切れ端は、直接廃棄物容器の中に、あるいは廃棄物容器が近くになければ、手押し車に入れられるべきである。これはつまずきの危険を防ぐだけでなく、仕事の完了時の清掃作業が高くなるのを防ぎ、良いプロフェッショナルとしてのイメージを高めることになる。



乱雑な作業場では、つまずく危険が多くを発生する。

化学物質流出

化学物質の流出は、ちょっとした不便さから大災害まで及ぶことになる。ほとんどの流出は小さいもので、危険は最小限かほとんどない。化学物質が危険でないなら、流出をブラッシングするか拭き取ることなどの通常作業できれいにすることができる。しかしながら、流出は、ある場合にはより大規模で、危険性物質を含んでいるかも知れない。流出が起こる前に、何をしたらよいか知っておくのは重要なことで、そうすることによって改善措置が迅速にでき、有害影響を最小にすることができる。もちろん、危険物質を使用している時は、COSHH カリスクアセスメントをしているはずで、そこには流出に対処するための計画を含むべきである。このことは、流失に対処するのに必要な材料を容易に利用できるようにしておくことを意味することになる。

Page 47

やけど

やけどは炎や熱といった明らかな源から起こるだけではなく、セメントや塗装溶剤など化学物質を含む材料からも起こることがある。電気さえやけどをもたらすことがある。材料を使って作業する際に、知らされて、危険だと気づき、必要な用心を払うのは重要なことである。



炎、熱、化学物質、および電気は、やけどをもたらす。

電気

電気は殺人者である。電気に関連した事故で、年間およそ30人の作業者が死んでおり、1000人以上が重傷を負っている（情報源：HSE）。電気に関する主な問題の一つは、それが目に見えないものであるということである。感電死させられるような電気工具で作業させられる必要はない。電気の流れた高架線のすぐそばで、電気コンセントのある壁を塗るか、床で保守作業を行うか、あるいは壁にドリルで穴をあけるか、これらはすべて感電につながってくる。

感電はいつも致命的であるというわけではないが、電気はやけどや、筋肉や心臓に問題をもたらすことがある。電圧の高さは、けがや死の危険への直接的なガイドにはならない、確かにわずかなショックでしか受けない静電気は、何千ボルトにもなるかもしれないが、このありがちな誤解にもかかわらず、

その陰で静電気の電流はほとんどない。一般に電圧が低いと、死亡発生の可能性は少ない。

イギリスで使用中の電圧には主に2タイプがある。230Vと110Vで、標準のイギリスの電源は230Vで、住宅のすべてのコンセントがこれである。その配線の含まれているのは、交流電力を運ぶライブ線とニュートラル線、安全装置として働くアース線の3本の線がある。3本の線は次のように色によって識別化されている。

ライブ線—ブラウン

ニュートラル線—青

アース線—黄色と緑色

最近、ヨーロッパの色に従うよう変えたもので、古い建物は、次のような色を持っている。

ライブ線—赤

ニュートラル線—黒

アース線—黄色と緑色

230Vは建設現場では、危険であると考えられたので、110Vを使用しなければならない。黄色いケーブルと異なった形のプラグによって識別された110Vは、変圧器で230Vから110Vに変換して使われている。

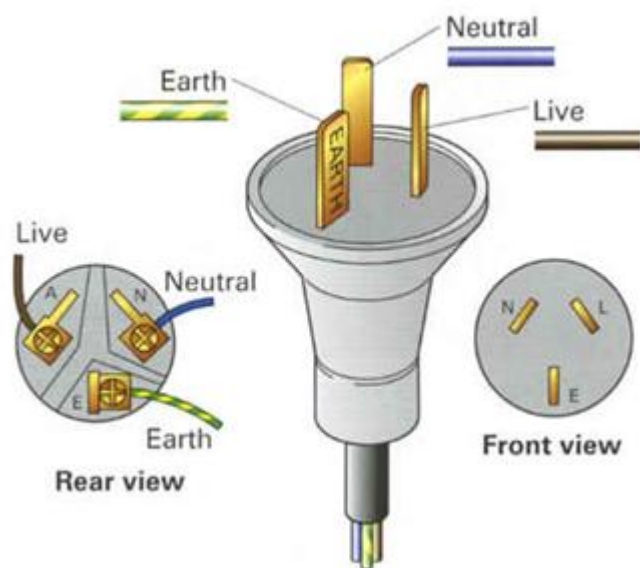


図2. 1 230Vプラグの線の色分け

110Vプラグ

感電への対処

感電の犠牲者を助けるのに、最初にしなければならないのは、電源に触れると、危険にさらされるかもしれないが、安全で、探すのに時間がかからないなら、電源を外すことである。犠牲者がドリルのように何か携帯用の工具で接触しているなら、木製のほうきなどの絶縁性の物を使用し、電源から遠ざけることを試みる。時間は貴重で、電源と犠牲者を切り離すのは、短時間でできる効果的な方法である。

電源からの供給がなくなるまで、感電の影響を受けた人に触れないようにする。電源がオフになっているのを確信するまで、犠牲者に触れないこと。ほとんど場合、水が電気を通して、人を感電死させる可能性があるので、浴室などの濡れた場所では、特に注意が必要である。

電気を実際に掛けられた人々は、助けを求めるため大声で叫ぶと考えられるかもしれないが、おそらく音は全く聞かれないはずだ。筋肉が家庭用電流（ほとんどの感電死が家で、家の電流から起こる）に接触すると、影響を受けた人は拘束状態になり、動くこと、応答することができなくなる。

木製の物を使い、迅速に強く人を打って、自由にし、傷つけないように試みて、電源から離すようにする。可能ならば電源は、同じ木製の物で持ち上げられるか、外されるかもしれない。この方法は500Vを超えている電圧では推薦できない。ゴムや絶縁された靴底の靴を履かないで、このいずれも試みないようにする。素足や靴下を履いた足は、身体を通して地面に電流が注がれることになる。

感電犠牲者の救急手順

- 発見者が一人なのかチェックする。他の人が周囲にいれば、救急車をすぐに呼ぶよう指示する。
- 応答と息づかいがないかチェックする。
- その場所が安全であり、感電の対象物を取り除いたり、電気の供給を切ったなら、大声をかけて意識があるかを確認する。この段階では、犠牲者に触れないようにする。
- その場所が安全であるかどうかもう一度チェックする。安全であることが確認できたならば、犠牲者の蘇生処置を始める。もしいかなる救急知識もないならば、緊急サービスで救急車を呼ぶようにする。

火災と消防設備

火災は、どこでも、いつでも始まる可能性があるが、火が燃えるには、3つのものが必要である。それらは次のもので。

1. 燃料
2. 熱
3. 酸素



図 2. 2 燃焼の三角形

「燃焼の三角形」として知られているもので、3要素は示すことができる。三角形のどれか一つを取り除くならば、火は燃えることができず、消えてしまう。

覚えておくように。

- 燃料を取り除くこと。何も燃えるものがないので、火は消えてしまう。
- 熱を取り除くこと。そうすれば火は消えてしまう。
- 酸素を取り除くこと。火が生き残るためには酸素を必要とするので、火は消えてしまう。

燃焼するか材料の種類によって、火災を分類できる。

- クラスA－木、紙、布など
- クラスB－可燃性液体、ガソリン、油など
- クラスC－可燃性ガス、液化石油ガス（LPG）、プロパンなど
- クラスD－金属、金属粉など
- クラスE－電装品

Find out



調べて

建設業にはどんな火災のリスクがあるのか？

「燃焼炎の三角形」の2つの側を補うことができる材料（燃料）と熱源について考えてみる。

消防設備

消防設備には、防火用毛布や消火器などのさまざまなタイプがある。各タイプは、特定のクラスの燃焼を消すのに最も効果的になるように設計されており、ある一つのタイプの火災に、いくつかのタイプの消火器が使われるべきではない。

消火器

消火器は、火を消すことができる物質が入っている金属円筒である。いくつかの異なったタイプがあり、どのタイプを、ある特定の種類の火災に使用すべきかを学ぶのは重要なことである。これは間違ったタイプを使用すると、火災を一層悪化させるか、自身が重傷を負う危険を冒すことになるからである。

現在、消火器はすべて一色（赤）となっているが、どのような物質が中にあるかが、色のバンドで示されている。

水

着色されたバンドは赤で、クラスAの火災でこのタイプの消火器が使用できる。またこの水消火器は、燃焼部分を冷やすのに、クラスCの火災で使うこともできる。

水消火器は、電氣的火災や油脂火災を消すのに決して使用すべきではない。これは電流が噴射している水を通して、消火器を保持している人へ導かれ、感電死する可能性があるからである。また燃えてい

る油脂に水をかけると、炎の爆発により火災を悪化させすることになり、大けがをすることになりかねない。



水消火器

Page 50

泡

着色されたバンドはクリームで、クラスAの火災でこのタイプの消火器は使用できる。泡消火器は、また、液体が流れていないならクラスBの火災で使用でき、ガスが液状ならばクラスCでも使用できる。



泡消火器



二酸化炭素消火器



粉末消火器

二酸化炭素（CO₂）

着色されたバンドは黒で、この消火器はクラスA、B、CおよびEの火災で使用できる。

粉末

着色されたバンドは青で、すべての種類の火災でこのタイプの消火器は使用できる。粉が炎をおおい消すことによって、火を消し止める。

消火用毛布

調理火災を消すのに適しているため、消火用毛布は台所や食堂に置かれている。これらは耐火材料で作られていて、炎を覆いそれ以上の酸素の供給を止めることで火を消す。また人が燃えている場合も、消火用毛布が使用できる。

消火用毛布で火を消すとき、全く炎の近くでやらねばならないで、特別な注意を払う必要であることを覚えておくのは、重要なことである。



消火用毛布

火災の際にすべきこと

仕事場へ新規入場オリエンテーションの間に、火災の際の集合場所（召集ポイントとして知られている）がどこにあるか、そして警報がどのように聞こえるかなど、火災非難手順が知らされるに違いない。警報を聞くと、していることを止めて、最も近い召集ポイントへ行かなければならない。これはすべての人の安否を明らかにするためである。召集ポイントに行かないか、名前が確認される前に、そこを去ったならば、救援するため、だれかが炎の中に戻って命を賭けることになるかもしれない。

警報を聞いた時、所有物を集めるために留まるべきでなく、また走ってはいけな。炎を発見しても、出口が塞がれていたり、火災が小さい時にだけ、火災を消すようにする。警報解除が出たときのみ、現場や建物に再入場することができる。

Definition



定義

Induction 入社・新規入場オリエンテーション

新しい仕事も始めるときに受ける、正式な入場説明で、トイレや食堂などがどこにあるか示されながら、社内や現場を案内される。そして火災の時にどうしたらよいか説明される。

Muster points 召集ポイント

火災の際の集合場所

Remember



覚えて

炎と煙は数秒で人を殺してしまうので、明確に、速やかに、賢く、考え行動する。

Page 51

安全標識

安全標識は、作業場の多くの場所にあり、次のような目的で備え付けられている。

- 危険を警告する。
- 事故を防ぐ。
- ものがある場所を知らせる。
- 何かをする場所であることを示す。

Definition



定義

Hazard 危険

予測はされるが、偶然に左右される危険

安全標識のタイプ

さまざまな種類の安全標識があるが、通常、それぞれが4つのカテゴリーに分けられる。

1. **禁止標識**—行われてはいけないことを知らせる。常に白地に赤線が貫いた赤線の円になっている。
2. **義務行為標識**—行われていなければならないことを知らせる。円形であるが、青色の背景に白いシンボルとなっている。
3. **警告標識**—特定の危険の注意を喚起する。三角形で、黄色背景と黒い境界線を持っている。
4. **案内標識**—ものの位置（例えば、救急ポイントなど。）のように有用な情報を与える。正方形または長方形で、緑の背景に白いシンボルとなっている。

ほとんどの標識には、指示すべきことを知らせるシンボルのみになっている。他のものには、また、いくつかの単語が使われ、例えば、禁煙標識は、赤い円にタバコのシンボルがあり、赤い斜線が引かれており、その下に「禁煙」という文字が表示されている場合がある。



図 2. 3 禁止標識



図 2. 4 義務行為標識



図 2. 5 警告標識



図 2. 6 案内標識



図 2. 7 シンボルと文字の安全標識

Remember



覚えて

必ず作業場での安全標識に注意を払うこと。それらはちゃんとした理由があって付けられている。

Page 52

個人防護具（P P E）

個人防護具（P P E）は、事故や負傷から防御するもので、身につけることで役立ってくる。P P E が事故や負傷を予防する唯一のものであるとは言えない。作業場でのその他の安全衛生のための方法（すなわち、安全設備、教育訓練、規則、法律など）と共に使用されるべきものである。

P P Eは雇用主から、無償で提供されねばならない、作業者はその手入れと、それを必要な時に使う責任がある。

Remember



覚えて

正しく使用されている場合にのみ、P P Eは適切に働く。

PPEのタイプ

作業中に危険から保護を必要とする身体の部分があり、作業に適したPPEを適切に使わなければならない。



安全ヘルメット



安全ゴーグル



安全眼鏡

頭の保護具

頭の保護具にはいくつかの異なったタイプがあるが、建設業で最も一般的に使用されるのは、安全帽（または、安全ヘルメット）である。落下物や打撃から頭を保護するのに使われ、ぴったり装着できる調節できるあご紐がある。いくつかの安全帽は耳の保護や目の保護の付属品が付いている。安全帽を、頭に直接つけられるもので、他の帽子の上につけてはいけない。

目の保護具

目の保護具は、埃や飛散する残材から目を保護するのに使用される。3つの主なタイプは次の通りである。

1. **安全ゴーグル**—丈夫なプラスチックで作られていて、埃が目に入る危険や衝撃負傷の可能性があるときに使用する。
2. **安全眼鏡**—丈夫なプラスチックから作られているが、ゴーグルより保護力は少ない。これは目を完全に覆わないので、飛散する残材からのみの保護となっている。
3. **フェイスマスク**—丈夫なプラスチックで作られていて、飛散する残材から顔全体の表面を保護する。しかしながら、埃から目を保護するものではない。

Page 53

足の保護具

安全長靴や靴は、落下物から足を保護し、釘などの鋭利な物が足を傷つけるのを防ぐのに使用される。安全靴にはつま先を保護する鉄と、足底を保護する鉄が入れられている。

聴覚の保護具

聴覚の保護具は、非常に大きい騒音によって引き起こされる耳への障害を防ぐのに使用される。いくつかのタイプの聴覚保護具があるが、2つの最も一般的なタイプは、耳栓とイヤードیفENDERである。

1. **耳栓**—騒音がそれほど激しくないときに、耳に挿入して使用される小さい繊維プラグである。耳栓

を使用するとき、挿入する前に、清潔であることを確認し、他人によって使用された耳栓は決して使用しないようにする。

２．イヤードیفエンダー頭の上につけるバンドに接続されており、耳全体を覆うよう装着する。極端な騒音があるとき使用して、定期的に掃除しなければならない。



安全靴



耳栓



イヤードیفエンダー

呼吸の保護具

呼吸の保護具は、作業者に危険になる埃や煙霧も吸い込むのを防ぐのに使用される。主なタイプの呼吸保護具は、防塵マスクである。

防塵マスクは、埃っぽい環境で働いているとき使用され、軽量、快適で、装着が容易である。マスクは 1 人毎に使われるべきであり、作業日の終わりに処分しなければならない。防塵マスクは無毒の埃からの保護を提供するだけであるので、作業者が毒性の埃や煙霧にさらされる場合は、完全な呼吸システムが使用されるべきである。

手の保護具

手の保護具にはいくつかのタイプがあり、それおれのタイプは、正しい使用目的で使われねばならない。例えば、ガラスを動かすのに軽量のゴム手袋をつけるのは、しばしば保護を提供しないので、革の長手袋を使用しなければならない。プラスチックでコーティングされた手袋は一定の化学物質から保護してくれ、ケブラーの手袋は、切断抵抗を提供する。目的に合った最も適切なタイプの手袋をするようにする、そのため、まず最初に行われることを見るようにし、次に手袋のタイプをその目的に合わせる必要がある。



防塵マスク



安全手袋

緊急事態

今までのところ現場で起こる事故や火災などの非常時の大部分を扱ってきたが、セキュリティ警戒や爆弾恐怖のように、意識すべき必要がある他の緊急事態がある。

現場新規入場オリエンテーションのときに、緊急時にどうすべきであるか、完璧に明らかにされるべきである。また爆破予告や火災報知機などのように、あらゆるタイプの緊急時の、サイレンや警報音も意識するようにすべきである。現場によっては、異なったサイレンや応急処置法があるかもしれないので、注意を払い、すべての指示を聞くのは重要である。もし不確ならば、尋ねるべきである。

応急処置

現場における事故の不幸なできごとでは、応急処置が与えられなければならないかもしれない。5人以上の現場であれば、適切な応急処置要員がいつも存在していなければならない。大規模現場には、数名の応急処置要員がいるに違いない。現場新規入場オリエンテーションのときに、応急処置要員がだれであるか、救急ポイントがどこにあるかを気にしておくべきである。救急ポイントには、起こりそうな負傷のタイプに対処するための救急設備がなければならない。しかしながら、応急処置は単なる第一歩で、大きなけがの場合は、緊急サービスが呼ばれるべきある。

良い救急の箱には、絆創膏、包帯、殺菌剤、ラテックス手袋、眼帯、眼帯、三角巾、創傷被覆材、および安全ピンがあるべきである。また、洗眼剤ステーションなどのように、作業によって必要とするなら、他の設備も利用できるようにすべきである。



救急箱は、軽傷に対処するための応急物資を提供する。



Remember

覚えて

安全衛生はすべての人の義務である。応急処置を受けて、2個のばんそうこうだけが残っているのに気付いたなら、上司にそれを報告するべきである。

Page 55

事故報告

事故が起こったとき、必ずしなければならないことがある。すべての事故は、事故報告書(The accident book)に報告され、記録される必要があり、けが人は処置を受けるため、訓練された応急処置要員に報告しなければならない。1995年傷害、疾病、危険事態発生報告規則(RIDDOR)に基づき、重大事故は報告されなければならない。RIDDORのもとでは、雇用主は以下のような、結果として生じたいかなる事故も、安全衛生庁(HSE)に報告しなければならない。

- 死亡
- 重傷
- けが人が連続して3日間以上仕事を休まねばならない軽傷

事故報告書(The accident book)

事故報告書は事故を起こした人か、これが可能でないときにけが人の代理人によってまとめる。事故報告書には次のような事項を含む、事故に関するいくつかの基本的詳細を求められる。

- 事故当事者
- 事故内容
- 事故発生場所
- 事故発生日、時刻
- 事故目撃者
- 負傷者住所氏名
- 装着していた個人防護具(PPE)
- とられた応急処置

また、事故を報告するのと同様に、「ニアミス」も報告されねばならない。これはしばしばニアミスが未来の事故につながるからである。ニアミスの報告で、問題を確認することによって、事故が将来起こるのを防ぐことができる。これは、受動的よりむしろ積極的な会社にするものである。

Report of an Accident, Dangerous Occurrence or Near Miss

Date of incident _____ Time of incident _____

Location of incident _____

Details of person involved in accident

Name _____ Date of birth _____ Sex _____

Address _____

Occupation _____

Date off work (if applicable) _____ Date returning to work _____

Nature of injury _____

Management of injury

☐ First Aid only ☐ Advised to see doctor

☐ Sent to casualty ☐ Admitted to hospital

Account of accident, dangerous occurrence or near miss
(Continued on separate sheet if necessary)

Witnesses to the incident
(Names, addresses and occupations)

Was the injured person wearing PPE? If yes, what PPE? _____

Signature of person completing form _____

Occupation _____ Date _____

図 2. 8 典型的な事故報告書 (The accident book)

Page 56

リスクアセスメント

もうすでにリスクアセスメントの実施を求めている法律がなんであるか気付いているにちがいない。1999 年職場安全衛生マネジメント規則は、すべての雇用主が以下の適切で十分なアセスメントをするよう求めている。

- 従業員が作業中にさらされていることによる、安全衛生の危険性。
- 雇用されていない人々や、その作業活動に関連した人々の安全衛生の危険性。

レベル2の資格取得候補者として、**リスクアセスメントの実施**するため方法を知っているのは、重要である。しばしばそのための直接の責任が与えられたポジションにいることになるかもしれないし、そこで取られた配慮や注意は、他のものの安全に直接的な影響を持つことになるかも知れない。どんな作業が危険か、危険を防ぐあるいは減少させるために何ができるか、知るようにしなければならない。

Definition



定義

Cary out a risk assessment リスクアセスメントの実施

事故が起こるという見込みに対して活動の危険性を測定すること。



芝刈りのような日常的仕事にも危険性を持っている。

リスクアセスメントには5つのステップがあり、ここでは草刈りを例として使うことにする。

ステップ1 危険の特定

草刈りするときの主な危険は、回転刃、ワイヤ刃、感電、飛散してくる石などからのものである。

ステップ2 だれが危険になるかの特定

危険な主な人は作業者であるが、通行人は飛散物によって打たれるかもしれない。

ステップ3 事故が起こる見込みに対する危険からのリスクの計算

危険からのリスクはかなり高い；刃やワイヤが指を切断する、感電による死亡、飛散物は失明か、死亡させる場合もある。

事故の発生見込みは中程度である；刃でけがをすることはほとんどないが、ケーブル刃で切られる機会の中程度、石を打ち飛散させる機会が高い。

ステップ4 危険を減少させる手段の導入

トレーニングにより、けがをする危険を減少させることができる。漏電遮断器（RCD）の使用と、トレーニングは、感電死の危険を減少させることができる。そして、最初に芝生をかき集めておくと、石

の飛散の危険を減らすことができる。

ステップ5 危険の監視

絶えず要素が変わるということは、リスクアセスメントが修正や徹底的に変更されねばならないことを意味している。今回の例では、雨が変更の要素になるかもしれない。

Definition



定義

RCD 漏電遮断器

残留電流装置、電流における変化を検出した場合に電気機器の電源を止め、感電死を防ぐ装置。

On the job:



足場の安全性

ラルフとビジャイは、足場の上の端材を片づけるため、足場の２段目で作業している。ラルフは、作業を急ごうと、足場の縁から下にある廃棄物用大型容器に端材を投げるべきではないかと提案した。ラルフとビジャイが働いているビルは、メイン道路に面しており、廃棄物用大型容器は、道路から遮蔽された場所には置かれていない。

ラルフの考えについてどう思うか。その答えを出した理由は何なのか。

FAQ



私の仕事に関連している安全に関する法律を、どのようにして見つけられますか？

雇用主やマネージャーに尋ねる、あるいは、www.hse.gov.uk でHSE（英国安全衛生庁）とコンタクトを取る。

私は、いつリスクアセスメントをする必要がありますか？

何らかの事故が仕事の直接の結果として起こる見込みがあるならば、リスクアセスメントが行われるべきである。安全側に立つために、各作業を始める前に、リスクアセスメントをすべきである。

私は、あらゆる規則を読んで、理解する必要がありますか？

いいえ、知る必要があるものを気付かせるようにするのは、雇用主の義務である。

Knowledge check



知識チェックリスト

1. 建設業に影響のある、安全衛生の法律の名前を5つあげる。
2. HSEは何を表しているか。それは何をしているか。
3. COSHHは何を表しているか。
4. RIDDORは何を表しているか。
5. もし安全衛生法を破ったとしたならば、雇用主や従業員にどんなことが起こってくるか。
6. 建設作業者の、二つの最も一般的なリスクは何か。
7. マニュアル・ハンドリングのテクニックを使用して荷を持ち上げるとき、けがを避けるためにできること二つを挙げる。
8. イギリスで使用している電圧の二つの主なタイプは何か。
9. どのような3要素が、火災を起こし、燃焼を持続させるか。
10. 二酸化炭素 (CO₂) 消火器では、どんなクラスの火災を消すことができるか。
11. 禁止標識は何を意味しているか。
12. 警告標識は、どのようにして識別できるか説明すること。
13. 個人防護具 (PPE) の6つのタイプの名をあげる。
14. 救急箱に含まれるべきである5品目をあげる。
15. 事故報告書に記入するのは誰か。
16. ニアミスを報告することは、なぜ重要なのか。
17. 簡潔に、リスクアセスメントが何であるか説明すること。